

泉村初代村長・牧

まき

菊市の記録

きく いち

明治二十二年（一八八九）、泉村が発足して初代村長に就任したのは牧菊市という人物です。

牧菊市は、『苦田郡誌』や『奥津町史』等にその名は掲載されているものの、細かな事跡等は明らかではありませんでしたが、このたび大阪在住のご子孫から菊市自身が生前公私にわたり記録していた資料等を寄贈していただきました。今回はその資料からわかる菊市の人物像を紹介します。

牧菊市は、嘉永元年（一八四八）八月二十五日、箱村で生まれました。幼くして両親を失いますが、祖父母の下で育てられ、文久三年（一八六三）、十六歳の時に祖父の死去に伴い家督相続し、翌年箱村の庄屋見習い年貢取立人に就任しました。



牧 菊市

慶応二年（一八六六）の第二次長州戦争では、夫役人足として徴発され、幕府方として長州（今の山口県）に出役しています。『奥津町史』によれば、大庭郡・西々条郡・東北条郡（今の真庭市・津山市・鏡野町域）からは延べ一七七人が出役していますが、菊市は箱村から唯一の出役で五月十二日に出発しています。役目を終えて帰村したのは同年七月十六日ですが、村民が久田下原まで出迎えてくれたこと、その帰りに後に二代目泉村長となる水田栄作が谷合橋から吉井川に落ち、川に流されて溺れたことが記録されています。翌年には西々条郡の年貢米を納めるため、御用船に乗って大阪の蔵屋敷ま

で出張するなど、多忙な日々を過ごしていたことがわかります。明治時代になると、地租改正に伴う土地地押調査委員、村会議員、岡山県第三十九区会議員、近知小学の学務委員など地域の要職を務め、明治二十二年、四十三歳の時に町村制施行に伴い初代の泉村村長に就任しました。菊市の記録によれば七月二十六日が村長選挙当日、七月三十一日が村長認可日、八月五日が認可状交付日となっています。初代助役は前述の水田栄作でした。

菊市の村長在任期間は一年三か月余りでしたが、その期間中の出来事として特記されているのは、明治二十三年一月十六日の役場金庫の盗難事件でした。盗難届や菊市の記録によれば、役場の裏口の鍵を壊して侵入し、金庫が奪われました。当日は平日であったことから宿直員が不在で、翌朝盗難が発覚しましたが、幸い翌月には全て取り戻すことができました。また、同年五月には役

場の隣家が火事になり、役場に延焼する危険があったため、書類や備品等運び出しましたが、幸い延焼せず無事であったということも書かれています。

菊市はこうした公的活動の記録だけでなく、家族や家の財産などについても細かな記録を残しています。明治四十二年（一九〇九）には妻と死別しますが、四十二年間無事に連れ添い、喧嘩もなかったこと、借金もなかったことなども書かれています。

晩年は数々の遺書を作成し、子供や孫たちへの財産分与を細かく指示しており、家族達への気遣いがうかがえます。また、自らが亡くなった時に着せる着物として、祖母手織りのゆかたと妻が仕立てた着物（村長時代に着用したもの）を望むなど、幼少から母の代わりに育ててくれた祖母と、長年仲良く連れ添った妻に対する感謝と愛情が伝わってきます。今回寄贈いただいた資料は、地域の歴史を記録するというだけでなく、菊市自身の家の歴史や本人の人物も知ることのできる貴重な資料といえるでしょう。

参考：『奥津町史』『苦田郡誌』『牧家資料』
協力：水嶋多子



牧 菊市 関連資料

菊市愛用の矢立
(携帯用の筆記用具)

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下
電話(0868)54-0573